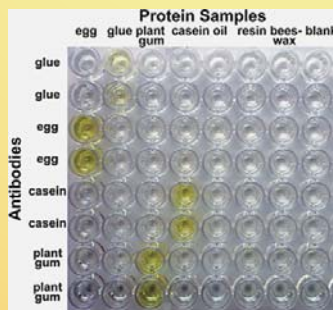
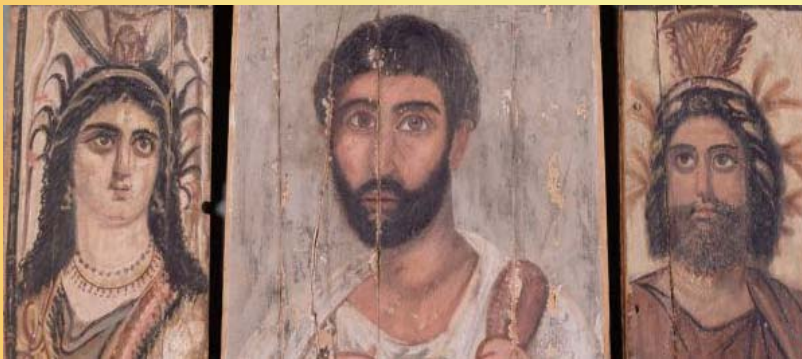


彩色文化遺産の有機物質の分析 に関するシンポジウム

日時 2013年1月7日(月) 13:00 ~ 17:00

会場 東京文化財研究所 地下会議室

東京都台東区上野公園 13-43 (最寄駅 JR 鶯谷駅)



Joy Mazurek

(ゲティ保存研究所・米国)

高嶋 美穂

(国立西洋美術館)

島津 美子

(東京文化財研究所)

中澤 隆

(奈良女子大学)



参加費無料

参加人数の把握のため、下記メールアドレスに
参加するお名前と人数をお知らせください
taniguchi.yoko.fu@u.tsukuba.ac.jp

主催：筑波大学西アジア文明研究センター

共催：国立西洋美術館

協力：東京文化財研究所

彩色文化遺産の有機物質の分析に関するシンポジウム

2013年1月7日(月) 13:00～17:00
東京文化財研究所 地下会議室

日本において、彩色文化遺産の顔料に関する自然科学的な分析の歴史は古く、さまざまな非接触的な手法を用いて、数多くの研究がなされています。しかしながら、顔料を接着するための膠着材や、有機顔料に関する調査事例はかなり限られており、事例が増加しにくいのが現状です。

乾燥地帯に位置する西アジアの彩色文化遺産は、比較的有機物質の残存状態が良好なため、さまざまな理化学的手法により有機物質の分析、同定が行われてきており、多種多様な有機物質に関するデータベースが作られています。今後、各種の分析手法が国内でも利用可能になれば、さまざまな事例の蓄積をはかることができるだろうと思われます。ひいては、各地域の彩色文化遺産の調査にも、将来的に利用することができることが期待されます。

このたび、筑波大学西アジア文明研究センターと国立西洋美術館は、エジプトをはじめ敦煌莫高窟の壁画など、さまざまな地域の彩色文化遺産の膠着材分析をGC/MSや抗体・抗原反応を用いた生化学的な手法で行っているジョイ・マズレックさんを米国のゲティ保存研究所(Getty Conservation Institute)からお招きしました。この機会に、東京文化財研究所のご協力をいただき、その研究手法や事例のご報告をいただくとともに、各発表者の方々に国内における各種の研究事例についても合わせてご報告いただき、有機物質の分析や調査に関する課題や展望について議論してゆきたいと思ひます。

なお、研究者の招へいは、筑波大学西アジア文明研究センターおよび科学研究費補助金「新学術領域研究：現代文明の基層としての古代西アジア文明」(領域代表者：常木晃)：「西アジア文化遺産の材質と保存状態に関する自然科学的な研究(研究代表者：谷口陽子)」によるものです。

■プログラム

- 13:00 開会
はじめに：趣旨説明、有機物質の分析に関する意義と課題
谷口 陽子 (筑波大学)
- 13:15 発表1
The Identification of Binding Media in Paint using ELISA
ELISA法を用いた膠着材の分析 (逐次通訳)
Joy Mazurek (ゲティ保存研究所・米国)
- 14:10 発表2
カミーユ・ピサロ作《収穫》に見られる技法について
高嶋 美穂 (国立西洋美術館)
- 14:40 休憩
- 15:00 発表3
19世紀の北ヨーロッパ油彩画の有機分析の事例
島津 美子 (東京文化財研究所)
- 15:30 発表4
質量分析法による膠着剤原料の分析
中澤 隆 (奈良女子大学)
- 16:00 (～17:00) 意見交換・質疑応答